

# シートを利用したふん尿保管施設

## 構造

- ・ ふん尿の上部と底部をシートで覆うだけの、低コストなふん尿管理施設です。
- ・ 床土により底部の遮水シートを保護し、過剰なはい汁を集水管により回収します。
- ・ 一時的なふん尿保管施設としての利用及び堆肥舎等で生産した堆肥の保管施設として利用できます。



低コスト化のポイント  
ふん尿の上部を、ビニールシート等の被覆シートで覆うだけなので、設置費が安価です。

低コスト化のポイント  
地面を掘り、そこに遮水シートを敷き、土で保護するだけの構造なので、設置費が安価です。

低コスト化のポイント  
自家施工により設置費を抑えます。

## メリット

- ・ シートで覆うだけなので、設置費が安価です。
- ・ 自家施工が可能です。
- ・ ほ場等どこにでも設置できます。

## デメリット

- ・ 切り返しが困難なため堆肥化はあまり期待できません。（特殊な機械を利用すれば切り返し可能）
- ・ 定期的に資材の更新が必要です。
- ・ 堆肥が高く堆積できないため、大きな施設が必要になります。

## 留意点

- ・ 好気発酵しにくいので、搬出時に悪臭の発生が心配されるため、設置場所は慎重に選びます。
- ・ 堆肥の自家利用を前提とした施設です。
- ・ はい汁を回収する集水管及び貯留槽の設置が必要となります。
- ・ はい汁は定期的に汲み取る必要があります。

## 設置コスト

建設費	約1,000円～ 3,000円/㎡(材料費のみ) (耐用年数は、遮水シート5年、 被覆シート2年程度)
処理ふん尿1m <sup>3</sup> 当たり建設費	2,900円/m <sup>3</sup> (2,000円/㎡で試算)
減価償却額	460円/㎡・年
遮水シート	330円/㎡・年
ビニールシート	110円/㎡・年
汚水貯留槽	20円/㎡・年

使用するシートの種類により価格は変わります。

## 必要面積

畜種	飼養頭数	必要面積 (㎡)
乳用牛	搾乳牛20頭、育成牛4頭	486
	搾乳牛30頭、育成牛6頭	736
肉用牛	肥育牛40頭、	275
	肥育牛80頭、	544
豚	肥育豚1,000頭	794
	肥育豚1,500頭	1,178

水分調整材を用い発酵可能な状態まで調整し、ふん尿を幅4m、堆積高1.5mでかまぼこ型に180日間保管するのに必要な面積を試算してあります。